

HOT NEWS OF JAPANESE NUTRITION/HEALTH INDUSTRY

JUNE 1-15, 2005

夏を目前にし、ダイエット商戦が本格化してきた。ダイエットピルでは、「最強のトライアングル」としてあるある大事典で紹介された CoQ10、リポ酸、L-カルニチンを配合した商品が多数見受けられる。しかし、今夏の大きな傾向は、食事代替型のダイエット食品だろう。食事代替型商品のカテゴリーでは、「マイクロダイエット」が積極的な宣伝広告を継続し、売上 400 億円以上という圧倒的なシェアを握っている。それに対抗する形で、大手食品会社からの新商品発売が続いている。キリンウェルフーズは、「リエータ」をリニューアルして本腰を入れ始めた。同社では、「リエータ 10,000 人実感モニター」を募集したり、通信販売限定で消費者が好みのフレーバーを選択できる「アソート」システムを取り入れたりしている。以前は、ドラッグストアで山積みになっていた「リエータ」も、ここ最近では品薄となっている。また、明治製菓は、「プロテインダイエット」に力を入れ、通信販売を強化している。その他、ドラッグストアではマンナンフーズの「マイスターバランス」やメタボリックの「スリムプログラム」、通信販売ではオルビスの「プチシェイク」などが健闘している。

ダイエット市場は、市場規模が大きい魅力的なカテゴリーであると同時に、売れ筋の移り変わりが激しいカテゴリーでもある。「短期間で楽しく痩せたい」という消費者の願望が強く、常に消費者が新しいものを求め続けるからである。短命のダイエット商品が多い中、「マイクロダイエット」は平成元年に発売して以来、消費者の支持を受け続けている。それも「低カロリー」というダイエット方法が、確実かつ短期的に効果を表す方法だからなのだろう。

食事代替型の低カロリーダイエット食品に参入する企業が増え、競争が激しくなることが予想される。

NEW PRODUCTS

ネスレジャパングループ、スポーツ栄養食品「パワーバー」シリーズから女性対象のフィットネス向けプロテインパウダーなどを発売

ネスレジャパングループは、世界中で愛好されているスポーツ栄養食品のブランド「パワーバー」より、20 - 30代女性をターゲットにした、フィットネス向け製品「パワーバー プロテインパウダー」2種を6月13日(月)に新発売する。消費者調査をもとに女性にも好まれる、甘さを抑えた製品に仕上げた。女性



をターゲットにしたプロテインパウダーの本格的な事業展開は、業界では新たな

試みである。また主に男性をターゲットにした「パワーバー フィットマックス プロテインパウダー」「パワーバー フュエルアップエナジーパウダー」、および従来から展開しているアスリート向けシリーズの新製品として、チョコレート味のバー「パワーバー プロテインプラス」も同時新発売

する。今回の新製品はスポーツ業界大手のミズノ株式会社を通しても販売される。「パワーバー」では、新製品の投入により、従来から展開しているアスリート向け製品の強化とともに、フィットネスやスポーツ愛好家という新たなターゲットの取り込みを図り、消費者の様々なニーズに対応していく。(6月7日 ネスレジャパンホールディングプレスリリース)

キッコーマン、国産ケールと豆乳から生まれた新・豆菜チルド飲料「豆菜果美 青汁だけよりいいみたい」を発売

キッコーマンは、6月20日より、国産ケールを搾った青汁に豆乳をブレンドした、こだわりの新・豆菜チルド飲料 デルモンテ・紀文「豆菜果美(とうさいかび) 青汁だけよりいいみたい」を全国で新発売する。(6月8日 キッコーマンプレスリリース)



カルピス、ラクトトリペプチド配合の健康栄養ドリンク「『アミール』マルチVサポート」を発売



カルピスは、健康成分「ラクトトリペプチド(LTP)」に加え、疲労時の栄養補給が期待できるビタミンB群、アミノ酸を配合した新しい健康栄養ドリンク「『アミール』マルチVサポート」(100ml瓶:210円、100ml瓶×3本入り:630円(メーカー希望小売価格・税込))を、6月13日(月)から全国で発売する。「『アミール』マルチVサポート」は、特定保健用食品「カルピス酸乳/アミールS」と同量の「LTP」(1本あたり3.4mg)を含んでいる。この「LTP」に加え、疲労に良いとされる成分であるビタミンB群(B1, B2, B6, ナイアシン)とアミノ酸(アルギニン、アスパラギン酸、BCAA)1000mgを配合した。生活習慣の不規則な40代~50代の男性を中心に、元気で健康な毎日をサポートしていく。(6月8日 カルピスプレスリリース)

ゼリア新薬、コンドロイチン硫酸など配合の健康飲料「コンドロビー濃縮液 潤甦」を発売

ゼリア新薬は、コンドロイチン硫酸・グルコサミン・コラーゲンペプチドを配合した健康飲料「コンドロビー濃縮液 潤甦(じゅんこう)」(720ml入り)を、7月1日より全国の薬局・薬店・ドラッグストアにて発売する。ゼリア新薬は、長年にわたって内服薬「コンドロイチンZS錠(医薬品)」をはじめとするコンドロイチン製剤の製造・販売に携わってきた。今回の「コンドロビー濃縮液 潤甦」は「錠剤が苦手な方やご高齢の方にも飲みやすいドリンクタイプの製品を」というお客様の要望に答えるために開発された。「コンドロビー濃縮液 潤甦」は、1日の摂取目安量90ml中に1,560mgのコンドロイチン硫酸を配合し、数あるコンドロイチン硫酸含有製品の中でも、コンドロイチン硫酸配合量が特に多い商品である。また、本製品はコンドロイチン硫酸に加え、1日当たりグルコサミン1,000mg、体内に吸収されやすいコラーゲンペプチド1,000mgも摂取できるよう配合しており、若々しく、活動的に過ごしたいと願う方におすすめの健康飲料である。(6月9日 ゼリア新薬プレスリリース)



住商ウェルネス、「毎日けっとう芋葉青汁」「FINE SHAPE」をテレビショッピングで発売

住友商事と東洋新薬が本年1月に設立した健康食品及び化粧品製造・販売合弁の住商ウェルネス株式会社は、商品化第一弾として、血糖値上昇抑制効果がある『毎日けっとう芋葉青汁』とダイエット効果がある『FINE SHAPE(ファインシェイプ)』の2種類の健康食品の開発に成功し、まずは住友商事のテレビショッピ

ング番組「住商ホームショッピング」を通じて販売を開始した。住商ウェルネスは、両商品合計で3年後(2007年度)に50億円の売上を見込んでいる。「毎日けっとう芋葉青汁」は、独立行政法人九州沖縄農業研究センターと東洋新薬が共同開発した鹿児島県産サツマイモ「翠王(すいおう)」の茎葉(甘藷若葉)を原料とする青汁商品で、血糖値上昇抑制、血圧上昇抑制、抗酸化作用等の効果を持つ機能成分“トリカ



フェート”を始め、鉄、カルシウム、カロテン、食物繊維、ポリフェノールなど、健康維持に良い成分が数多く含まれている。「FINE SHAPE」は、東洋新薬が開発したダイエット商品で、1食当たり摂取必要量を十分満たすビタミン、ミネラルなど13種類の微量必須栄養素がバランス良く含まれているほか、肥満防止の効果を持つ7種類の食物繊維(ペクチン、ガラクトサン、サイリウム、キトサン、マンナン、アルギン酸、セルロース)が含まれている。(6月10日 住商ウェルネスプレスリリース)

TECHNOLOGY UPDATES

サントリー、ウイスキーに含まれる痛風・高尿酸血症予防作用のある成分について発表

サントリーは、静岡県立大学、聖マリアンナ医科大学との共同研究により、ウイスキー中に痛風・高尿酸血症予防作用を持つ可能性のある成分が存在する可能性を明らかにし、一部成分の構造決定に成功した。その研究成果を第49回日本リウマチ学会、第14回国際リウマチシンポジウム(4月横浜にて開催)で発表した。(6月3日 サントリープレスリリース)

サントリー、ウイスキー中の糖尿病合併症予防成分の単離に成功

サントリーは、静岡県立大学、福山大学、京都府立医科大学との共同研究により、ウイスキー中の糖尿病合併症予防成分として、ポリフェノール類のひとつであるエラグ酸を単離した。その研究成果を日本糖尿病学会(2005年5月、神戸にて開催)で発表した。(6月3日 サントリープレスリリース)

ヘリオス酒造、「黒麹醪酢(くろこうじもろみす)」によるコレステロール値改善効果を証明

総合酒類メーカーのヘリオス酒造は、泡盛の製造過程でできる醪(もろみ)を原料に醪酢(もろみす)「黒麹醪酢(くろこうじもろみす)」を製造・販売しているが、このたび、醪酢(もろみす)が血中コレステロール値を低下させ、正常値に近い数値に改善する効果があることを確認した。この研究成果は、日本薬科大学医療薬学科の渡辺泰雄教授(薬理・薬物治療学)の協力を得て、血中のコレステロール値が高め(210mg/dl以上)の中高年の男女12名を対象に5週間飲用してもらい、それぞれのコレステロール値を測定した。研究結果は、2005年8月6、7日の第7回応用薬理シンポジウム(於:幕張メッセ国際会議場)にて渡辺教授と、臨床試験を施行した千代田パラメディカルケアセンターの伊藤薬学博士等によって発表される。(6月6日ヘリオス酒造プレスリリース)

ロート製薬、乳酸菌成分LFKの色素沈着抑制・美白効果を発見

ロート製薬は、バイオベンチャーのニチニチ製薬株式会社との共同研究により乳酸菌成分LFKを経口摂取

すると、紫外線による色素沈着を効果的に抑制し、高い美白効果を発揮することを発見した。本試験において、内服用の美白成分として汎用されているビタミンCとシステインの組み合わせより有意に色素沈着を抑制する結果が得られており、今後は乳酸菌成分LFKを活用した製品の開発を進めていく。(6月8日 ロート製薬プレスリリース)

花王、高濃度茶カテキンが食後のエネルギー消費を増加など体脂肪低減メカニズムの一端を解明

花王は、これまでに高濃度茶カテキンを8～12週間摂取することで、体脂肪が減少することを報告してきた。今回、男性被験者に高濃度茶カテキンを継続摂取してもらったところ、食事で摂った脂肪を燃焼しやすくする作用と共に、食後のエネルギー消費を上昇させる作用が明らかになり、これらの作用が高濃度茶カテキンによる体脂肪低減メカニズムの一端であることを確認した。本研究成果は、日本カテキン学会(2005年6月5～6日、パシフィコ横浜で開催)にて発表した。(6月9日 花王プレスリリース)

農林水産省、機能性研究など共同課題 74 項目を採択

農林水産省は、食品における機能性研究などを含む競争的研究資金事業のうち、「地域食料産業等再生のための研究開発等支援事業」で、5月25日、64課題を採択した。申請、採択された企業と独立法人などが共同で機能性などの研究をし、単年度ごとに外部委員が評価をし、継続するかどうかを審議する。採択された課題には、(株)ファーマフーズの「葉酸を高濃度で含む新規機能性卵の開発」、高梨乳業(株)と東邦大学医学部の「複合乳酸菌発酵によるスギ花粉症などアレルギー体質改善用新規機能性食品の製造技術の開発」、タカノフーズ(株)と(独)食品総合研究所の「免疫機能調節を目的とした納豆菌利用技術の開発」などがある。また、3年間の実用化に向けた研究として、農林水産技術会議事務局は「民間結集型アグリビジネス創出技術支援開発事業」を10課題、4月15日に採択した。採択された課題には、「免疫調節機能等の生理活性を有する酵素合成グリコーゲンの開発」(江崎グリコ、東京薬科大学)、「醤油由来の機能性成分を活用した健康機能食品の開発」(ヒガシマル醤油、兵庫県立大学大学院ほか)、「肝機能向上及び筋肉・骨増強効果を有する米タンパク質の開発」(亀田製菓・新潟大学農学部)などがある。(6月8日 健康産業新聞)

COMPANY NEWS

キリングroupとヤクルトgroup、健康・機能性食品事業で提携

キリンビール株式会社と株式会社ヤクルト本社、キリンビバレッジ株式会社の3社は、健康・機能性食品事業を中心とした日本国内での事業提携に合意し、6月15日に覚書を締結した。今回の提携は、2003年からヤクルト本社とキリンビバレッジ社が、自動販売機事業での商品相互販売を進めてきたことに端を発し、キリングroupとヤクルトgroupがさらに広範囲に連携することで、中長期的な事業環境の変化に対応し、新たな価値の創造が可能であるとの共通認識に至ったことから実現した。「食と健康」を重要な事業領域と考えるキリングroupとヤクルトgroupは、飲料・食品事業を中心に医薬事業も展開している。両groupの飲料・食品事業および医薬事業で培った研究開発力を生かすことで、新時代の健康・機能性食品事業を実現すべく、共同事業化の詳細を検討していく。さらに、従来の飲料・食品事業分野においても、生産、物流面で共通する機能の相互活用を開始するほか、現在ヤクルト本社とキリンビバレッジ社の間で取り組んでいる

自動販売機事業での協業体制の強化を進める。また、提携基盤強化を目的として、キリンビバレッジ社がヤクルト本社の発行済株式総数の1.40%にあたる株式を約50億円で取得するとともに、ヤクルト本社はキリンビール社の0.44%にあたる株式を約45億円、キリンビバレッジ社の0.36%にあたる株式を約5億円で取得した。(6月15日 麒麟麦酒、ヤクルト本社、キリンビバレッジプレスリリース)

CONSUMER TRENDS

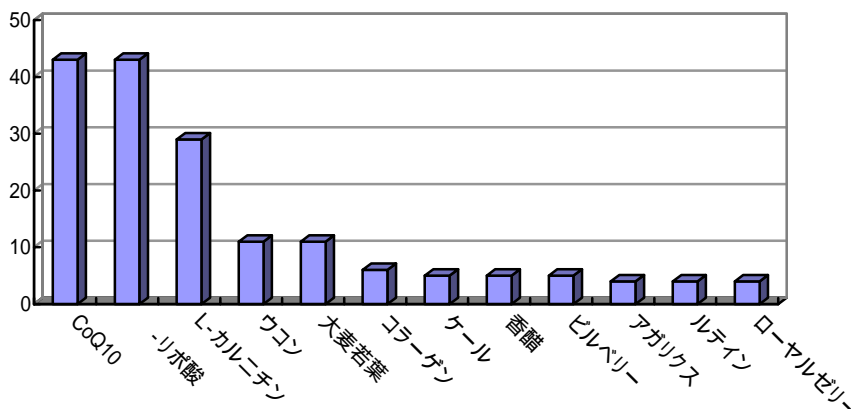
依然として高い「痩せ願望」

キリンウェルフーズが、「20～30代既婚・独身女性のダイエット調査」を実施、その結果を発表した。調査方法はWebモニターによるアンケートで回収数は1,032サンプル(既婚女性517、独身女性515)。調査によると、自分の体型について「太っている」、「やや太っている」と答えた人が全体の59.7%いた。しかし、実際にBMIが25%以上の人には14.6%に過ぎず、依然として高い痩身願望が見られた。ダイエット経験者は77.7%で、その内の半数近くが5回以上の挑戦を試みている。具体的なダイエット方法については、「夜の食事の量を減らす」(63.5%)、「間食をやめる」(53.0%)という回答が上位を占め、約3割の人が「ダイエットに有効な成分が謳われている食品」、「ダイエットサポート食品」などを利用していた。ダイエットサポート食品に求めることは、8割の人が「価格がリーズナブルである」と回答し、具体的には「5,000円未満」を挙げる人が半数近くに及んだ。その他、「必要な栄養素が十分に含まれている」(67.6%)、「おいしいこと」(66.0%)、「腹もちがいいこと」(63.1%)、「手軽なこと」(59.4%)、「短時間で効果が出ること」(49.1%)と続いた。(6月1日 健康産業新聞)

MARKET TRENDS

受託製造会社アンケート 2005年上半期人気受注素材

健康産業新聞社によると、受託製造会社93社に対して2005年上半期の人気受注素材を尋ねたところ、CoQ10及びL-リポ酸が圧倒的な人気素材として挙げられた。3位には、L-カルニチンがランキングされ、4位以下を大きく離れた。(6月8日 健康産業新聞)



HSC ジャパンでは、2005 年上半期は、「あるある大事典」の影響により CoQ10、 α -リポ酸、L-カルニチンの需要が大きかったが、下半期はこのブームも沈静化すると予想している。CoQ10 の品薄は依然として続いているが、一時の大ブームからは落ち着きが見られ始め、ドラッグストアでは在庫も見られるようになってきた。CoQ10 が配合されていれば売れる、という流れは終息し、消費者からの支持が高い一部ブランドのみが勝ち残っていくと思われる。また 2006 年には、CoQ10 の原料供給量が増え、品薄も解消されてくると予想される。一方、 α -リポ酸は、2 月後半には品切れが見られたが、既にだぶつき始めている。L-カルニチンは、期待ほどには大きなブームとならなかったようだ。